

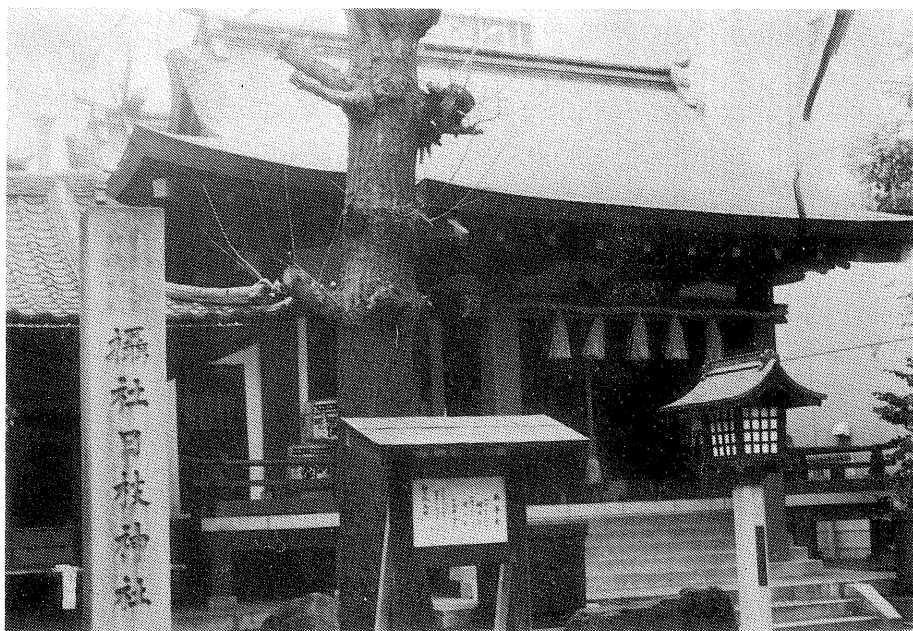
1月15日1982・No. 40

京橋の印刷

発行所

東京都印刷工業組合京橋支部
〒104 東京都中央区新富1-16-8
日本印刷会館3F 電話 552-1855

印刷所 八千代印刷株式会社
編集 田島 弘



日枝神社 ここは(日本橋茅場町一の一八)千代田区永田町日枝神社の祭礼に渡御する神輿を安置する場所、つまり御旅所であり、いまも摂社になっている。寛永の『武州豊嶋郡江戸庄図』では、このあたりは、大のう寺・

じげん寺・金蔵じ・ほどういん・でいれいじの五寺となつてゐる。しかし、承応二年の『武州古改江戸之図』には(山王御たび所)と明記され、以後の江戸絵図はみなこれに準じてゐる。その由緒などに関して、『江戸名所絵図』に、「遙拝の社二字並建り。寛永年間、此地を山王の御旅所に定らるといへり。…隔年六月十五日御祭礼にて、永田馬場の御本社より神輿三基、此所に神幸あり。仮に神殿儲け、供御を献備し、別当は法楽を捧げ、神主は奉幣の式を行い、夜に入て帰輿なり」とあり、いまも隔年の山王祭には、本社の鳳輦が立ち寄つて献饗が行なわれている。入口には奥まつて木造の明神鳥居があり、その内側左手に水盤舎、さらに花崗岩の明神鳥居をくぐると、右手に社務所があり、社務所の右前には明徳稲荷神社がある。社殿はコンクリート造りで昭和初年の建造、戦災に一部が焼損したとのことである。

四年の昨年は一部の素材産業を除き大企業の業績は好調で、家電、自動車の輸出産業は欧米諸国の非難的になつてゐる。中小企業もトリ年に肖り、不況から抜け出せるとの淡い希望も虚しく一年が過ぎ去ろうとする年末に五七年度予算政府案は超緊縮と云われて発表された、教育、福祉をおさえ防衛費だけが七・七五四%と、突出が目立ち中小企業対策は前年度比マイナスを示めている。そのうえ増税、公共料金の値上げが予定されて、成年を迎え、犬も歩けば棒にあたる印刷業界は昨年持ち越された紙カルテルの結果、用紙価格の値上りだけと云う厄介な棒の始末をどうつけるのか、他人の尻を拭くことにならぬよう年頭の誓いとした。

目次

〈表紙〉	
巻頭一言	(1)
法律では印刷業は都市型産業と認められてない	(2)
経営者・営業マン研修講座	(4)
レイアウトについて	(6)
税務研修会	(9)
経営者に求められるリーダーシップ	(10)
沖縄旅行記	(14)
地区だより	(15)
支部の動き	(16)
編集後記	(16)

巻頭一言

四年の昨年は一部の素材産業を除き大企業の業績は好調で、家電、自動車の輸出産業は欧米諸国の非難的になつてゐる。中小企業もトリ年に肖り、不況から抜け出せるとの淡い希望も虚しく一年が過ぎ去ろうとする年末に五七年度予算政府案は超緊縮と云われて発表された、教育、福祉をおさえ防衛費だけが七・七五四%と、突出が目立ち中小企業対策は前年度比マイナスを示めている。そのうえ増税、公共料金の値上げが予定されて、成年を迎え、犬も歩けば棒にあたる印刷業界は昨年持ち越された紙カルテルの結果、用紙価格の値上りだけと云う厄介な棒の始末をどうつけるのか、他人の尻を拭くことにならぬよう年頭の誓いとした。

工業等の制限に関する法律は 印刷業を都市型産業と認めてない

建築基準法を含めて法改正運動を

支部長 石曾根 啓悦

牛乳やアイスクリームしか 残れない工場追い出し法

印刷業界では印刷産業は都市機能と密接なかわりをもつ、情報産業の一端を担う都市型産業であると自認しているのである。しかも工業統計最新資料である昭和五四年度分が発表されたが、印刷業の出荷額はおよそ三兆一千億円に達し、東京都においても自動車、出版に次ぐ産業と位置づけられている。しかし、いわゆる工場規制三法では都市型産業とは認められていないのである。なかでも大都市から工場を追い出すのに、最も威力を発揮している「首都圏の既成市街地における工業等の制限に関する法律」(略称「工業等制限法」)であり、首都圏への産素と人口の過度の集中を防ぐ建前で、昭和三四年に制定され、その規制の重点は制限区域内では床面積五百平方メートル以上の作業場の新增設を公害防止などの目的以外は許可しない厳しい内容で、大

都市では「市民生活に密着し、しかも保存がきかない」ことなどを基準にして八業種の立地を認めたもので、牛乳、発酵乳・クリーム・乳酸菌飲料、アイスクリーム類、生パン・生菓子、生コンクリートなどの製造業と、食品冷凍業、製氷業、日刊新聞となっている。

この八業種は大都市に必要欠くことができないとし、追い出し対象から除外された都市型産業と認められ、都内では二三区と三鷹、武蔵野の両市が制限区域に指定され、除外された八業種以外の業種は制限区域内では五百平方メートル以上の作業場の新增設はできないのである。さらに昭和三九年に「近畿圏の既成都市区域における工場等の制限に関する法律」が制定され、清酒製造業をさきの八業種に加えて九業種が追い出しの対象外となった。このほかに工場立地法が昭和三四年に、工業再配置促進法が昭和四七年に制定され、大都市から工場追い出し三法が堂々とその姿を整えたのである。

戦後間もない昭和二五年に定められた建築基準法では、都市の建物の用途、高さ、密度などが規制される「地域地区」の大綱がきめられ、昭和四三年の都市計画法の制定とともに、その後の都市構造の変化にともない法改正がおこなわれ、昭和四八年には都市計画法第八条、建築基準法第四八条による土地利用の制限が強化された地域地区の全面見直しがおこなわれた。

東京都では当時の美濃部都政のもとで住民の生活環境の保護・改善、都市公害の防止、都市防災の強化、都市機能のよみがえり、の四つを柱として地域地区の全面改正がおこなわれた。とともに東京都特別工業地区条例、東京都安全条例による建物の立地や構造への制限を設け、さらに東京都公害防止条例を定めて国の規制値を上廻る規程を設けて、工場の追い出しに柏手をかけた。

全国諸団体・地方自治体は 国に対し法律改正を迫る

高度成長のもとで法規制が着々と整うなかで、オイルショックなどによる世界経済の影響により、低成長へ転換したわが国経済は、それにとまなう社会情勢の変動、価値観の変化などにより大都市の自治体では、九業種のみを除外をした「工場規制法」が不満で、もっと除外業種をふやさなければ都市の経済力は弱まるばかりだと、除外業種をふやす運動が



祝・創刊
四周年

京橋支部顧問 相談役・参与の会

- | | | |
|-----|---------|---------|
| 顧問 | 高橋 与作 | 正進社印刷 |
| 相談役 | 伊坂 一夫 | 伊坂美術印刷 |
| | 花崎 実 | 大東印刷工芸 |
| | 中村 謹吾 | 日本精版印刷 |
| | 白橋 龍夫 | 白橋印刷 |
| | 市川 仁作 | 三和印刷社 |
| | 斉藤 喜徳 | 南斉藤正文堂 |
| | 石沢 幸 | 石沢印刷 |
| | 瀬戸 昇之助 | 昇寿堂 |
| | 片岡 義郎 | 共立印刷 |
| | 荒川 隆晴 | 三荒印刷興業 |
| | 池宮 義久 | 三進印刷 |
| | 久保田 幸一郎 | 東京真宏印刷 |
| | 小宮山 敬之 | 小宮山印刷 |
| | 大竹 次郎 | 大竹印刷 |
| | 榎本 栄七郎 | 榎本印刷 |
| | 荒井 政吉 | 荒井美術 |
| | 加瀬 文吉 | 文寿堂印刷 |
| | 森 元雄 | モリイ |
| | 松岡 繁夫 | 文海堂 |
| | 小山 英美 | 高千穂印刷 |
| | 児玉 正己 | 信濃印刷 |
| | 大橋 忠治 | 東銀座印刷出版 |
| | 土井 嘉光 | 土井印刷 |
| | 小倉 忠昭 | 小倉印刷 |
| | 小倉 武治 | 相相互美術印刷 |
| | 長島 伸行 | 長島印刷所 |

全国の経済団体や地方自治体で問題化して、最近の日経新聞などにたびたび掲載されている。

そのトップは昨年三月に横浜商工会議所が国土庁に対して「工業等制限法の緩和に関する要望」として「都市型工業と認められる業種は対象外にしてほしい」と見直しを迫り、その後、神奈川県では横浜、川崎の両市がそれぞれの立場で「工場規制三法」などの改正を国に求めているので、県としては両市が連携して情報交換や共同研究をおこない、法改正の運動を展開するよう提案している。

東京都では生活基盤整備型の美濃部都政を引き継いだ鈴木都知事は「マイタウン東京構想」をかかげ、財政の建てなおしと経済産業基盤の再整備をかなり重視した計画で、都市本来の機能である「住、商、工」の再生による「定住性」の回復を主張して、鈴木知事は、昨年一二月七日の都議会本会議で「工場規制三法」について「都市活力を維持するためには規制を再検討することが必要」と、公式に国に対し見直しを求める見解を明らかにして注目されている。——ことが報道されている。

東京都心の区は人口減少 新構想にかけける活力回復

この「マイタウン東京構想」と軌をいっつにして、中央区でも「中央区基本構想」を昨年区議会の議決を経て策定して

いる。その背景として区の現状を次のようにとらえている。

中央区では商業・経済をはじめ文化、情報の中核など多様な都心機能を擁し、東京大都市圏の発展を支える重要な役割を担っている。その反面都心機能の集中・拡大は、居住機能の後退と生活環境の悪化をもたらし、定住人口を減少させ、昼夜間人口較差を拡大するなど、中央区の均衡ある発展を阻害する要因となっていると指摘し、これまでの行政計画の見直しをおこなおうとしている。

中央区の基本構想は昭和五〇年に特別区制度の改革により区長公選制が復活し一般市なみの自治体としての機能が強化されるなど、行政条件も大きく変化し、区政運営の指針として二一世紀をめざす、今後二〇年間の長期的な展望のもとに将来あるべき姿を想定して、街づくりの基本は都心街区である中央区の人口減少による、空洞化現象に歯止めをかけることを重点として、「職・住」の共存を基盤とする中小企業振興、特に地域産業の工場立地については従来までの方向を転換して、地域産業と社会生活の調和を「住・商・工」の混合した機能を複合的に利用を促進し、企業の発展のために共同化・協業化を進め、産業と生活の共存の調和をはかろうとしている。

交換集団化か他へ移転か 中小印刷の死活をかけた

こうした中央区の基本構想だけではなく東京都二三区においては人口の空洞化が将来ますます進行するものと考えられ地方自治体の都市づくりとあわせて、工場規制三法の改正運動のなかで、印刷業が都市型産業として認められ、工場追いつき法から除外することが、中小印刷業に關係の深い建築基準法の「別表第二」の「用途地域内の建築物の制限」から「原動機を使用する印刷」の条文を外すことの可能性は充分にあると考え、今後の業界の運動に加えられることを提案する。用途地域では中央区のほとんどが商業地域に指定されていて、一五〇平方メートル以上の作業場の新設は不可能であり、なかでも昭和四八年の地域地区全面見直しで、準工業地域から大幅に住居地域への指定替えがおこなわれた月島地区は、工場追い出し法により石播重工をはじめに、石井鉄工所、月島機械などの機械・金属、メッキ工業及び、それらの関連下請工場の多くが転出し、そのほとんどの跡地にはマンションが建てられ住居地区へと様相を変えてしまい、指定替えをされた住居地域にとり残されたかたちで、京橋支部月島地区組合員の半数の七社が戦後三〇数年を経過して、老朽化した工場の改築については、防火構造として特例が認められたとしても作業場面積が五〇平方メートル以下では、企業の存続をかねねばならず、集団化、共同化を含む転出にしても費用のかさむ問題である。



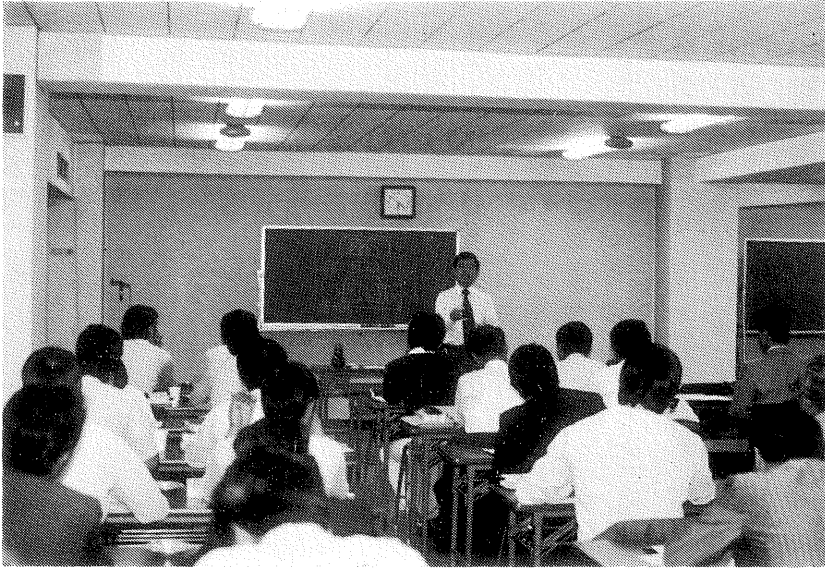
東京都印刷工業組合・京橋支部

支部長	石曾根啓悦	八千代印刷(株)
副支部長	田島弘	聖文社印刷(株)
"	坂田利正	秀英堂紙工印刷
"	田島一弥	久栄社印刷所
"	三田村桂太郎	三田村印刷所
"	神林克明	神林印刷(株)
"	室田利一	室田印刷(株)
"	水野雅生	水野写真工芸印刷所
監査	神田半三	永和堂(株)
"	竹内喜夫	三青社
地区長	京橋 安田博威	丸栄(株)
"	銀座 児玉昭太郎	京屋(株)
"	新富 中村憲吉	日本精版印刷(株)
"	築地 神田半三	永和堂(株)
"	入船 畑井健良	文英堂印刷(株)
"	湊 長島一磨	大秀社
"	八丁堀 村上繁夫	明文社印刷(株)
"	新川 伊森善之	昌平堂印刷(株)
"	月島 小池馨	安信製版(株)
地区幹事	京橋 尾島賢一郎	三徳印刷(株)
"	" 村上洋二	光ビジネスフォ(株)
"	" 永島洋二	冬水印刷(株)
"	" 保木宏勝	大秀印刷(株)
"	" 松岡誠一郎	文海堂
"	" 小林恒夫	信誠印刷(株)
"	" 小森常雄	小森印刷(株)

東印工組京橋支部
東商中央支部 共催

経営者営業マン研修講座

充実の日程二カ月にわたる八日間終る



十月、十一月の二

カ月間に亘り毎週水曜日に開催された東印工組京橋支部、東商工会議所中央支部共催の「経営者・営業マン研修講座」も無事に終了した。

毎回、支部組合員の会社の営業マンの方々の熱心な参加で常に四十数名の聴講者が、午後六時より三時間の講義に耳を傾け、営業活動への知識の蓄積に夜おそくまで勉強していたのが印象的である。もともと、この企画は八丁堀地区で地区役員を対象とした勉強会を開催することになったのが、部長・地区長会でこれをと

り上げ、一人でも多くの支部内企業の営業マンに聴講してもらおうのがよいのではないかとの意見が圧倒的に多く、三田村副支部長の尽力により実現したものが、支部主催としただけに聴講生も多く、また石曾根支部長も支部行事として率先これに参加、毎回三時間に亘る講義を八回に亘り出席した。

今回は初めての東京商工会議所中央支部との共催で、資金面でもかなりご援助を戴きました。また会場も東商中央支部の講堂を使用させていただくなど側面より温かいご支援をいただきました。

さて、この講座(別掲)も当初は本部主催の「営業士認定講座」との類似講義も多く、支部として開催するのはいかがかと足踏みをしましたが、本部主催の営業士認定講座は全支部の組合員が対象のため受講者も多く行き届かなかった面もあったようだが、支部主催講座ではキメ細かく、さらに内容も高めて行なっていくというところで開催に踏み切ったものであるが、本部講座のように終了後、試験をうけて「営業士」の資格がとれるという特典がないのが残念であった。がしかしこれは本部公認の資格なのであるから仕方ないところである。

今回の支部主催の場合には、営業マン各位の感想を求めると、今後の支部事業への参考とすることができた。

今後の講座には、見積り計算講座を組み入れることも必要でなからうか。

春原 新松	福田 満州男	小筆 正敏	和田 博邦	小沢 勤	松橋 強	大沢 将	市川 重雄	齊藤 泰次郎	松本 尚武	中山 英男	宮川 良一	大島 常雄	河野 秀衝	榎本 義則	十文字 康雄	小倉 昭夫	野村 道生	円谷 欽吾	中村 脩造	船尾 義道	佐野 敏夫	増田 勝彦	石井 泰明	岩本 久人
(備)すのほら印刷所	福田印刷工業(株) 東京支部	小筆印刷(株)	和田美術印刷所	大日本ビニール(株)	(株)王友社	大沢印刷(株)	(株)三和印刷社	文行堂印刷(株)	(株)本印印刷所	(株)中山印刷所	(株)宮川印刷	(株)三豊社印刷所	(株)国際印刷	(株)榎本印刷所	(株)三雄舎印刷(株) 本社	小島印刷(株)	(株)政弘社	(株)伊坂美術印刷(株)	(株)共盛堂印刷所	共立印刷(株)	秀文社印刷(株)	(株)長正社印刷所	石井印刷(株)	支部専従書記

謹賀新年 祝・創刊 四周年

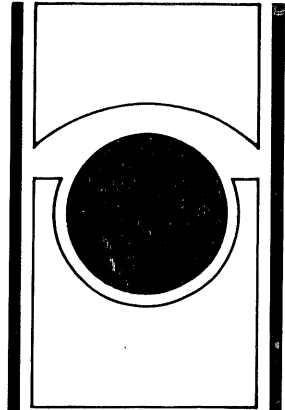
経営者・営業マン研修講座日程 (1回3時間総所要時間24時間)

月 日	回	テ ー マ	内 容	講 師
10/7(水)	1	営業マンの 一般常識	① セールスマナーのいろいろ ② セールスレターの常識 ③ 得意先との交際術	(財)日本印刷技術協会常務理事 岩野行雄
10/14(水)	2	印刷営業に 必要な日程管理	① 日程管理の基本原則 ② 各工程でのチェックと中間報告 ③ 遅延した場合の対策	(財)日本印刷技術協会専務理事 川井利勝
10/21(水)	3	得意先折衝の 進め方	① 得意先へのアプローチ ② 訪問予定および実績対比 ③ 得意先情報収集と活用	(財)日本印刷技術協会専任講師 杉田寿夫
10/28(水)	4	営業マンの 発想法	① テーマ設定と行動単位 ② 実行プロセスとスケジュール化 ③ 行動計画および実施後の評価・改善	(財)日本印刷技術協会常務理事 岩野行雄
11/4(水)	5	売上目標達成の ための作戦	① 販売計画と目標達成作戦 ② 目標達成までのプロセス管理 ③ 目標対実績対比および改善案	(財)日本印刷技術協会専任講師 杉田寿夫
11/11(水)	6	知っておきたい 製版知識	① カラーシキヤナの原理 ② レタッチテクニックによる印刷効果 ③ 新しい製版技術	(財)日本印刷技術協会教育係長 松浦広
11/18(水)	7	OAと印刷技術	① オフィスオートメーションを構成する機器 ② 身近になったコンピュータ ③ OAと印刷技術	(財)日本印刷技術協会教育係長 松浦広
11/25(水)	8	クレーム問題の 実際と対策	① クレーム内容と層別 ② クレーム対応行動 ③ クレーム対策および問題	(財)日本印刷技術協会専務理事 川井利勝

最後に本講座の成功は、石曾根支部長、三田村副支部長の熱意に負うところが多
く、敬意を表する次第である。また東京、商工会議所中央支部と日本印刷技術協会
へ、中小企業振興の熱意と御厚情を感謝
申しあげる次第であります。

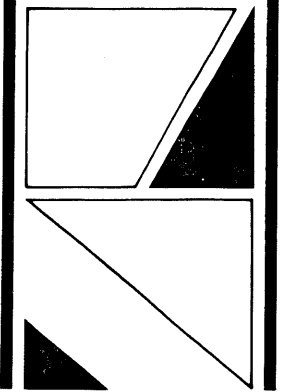
東京洋紙同業会・京一会会員 (五十音順)

七洋紙業株式会社	株式会社 塩 沢	三和紙業株式会社	株式会社 桜 井	國榮紙業株式会社	株式会社 公 栄 洋 紙 店	株式会社 栗 原 洋 紙 店	京橋紙業株式会社	株式会社 共 和 洋 紙 店	木邨紙業株式会社	株式会社 加 清	株式会社 鵬 紙 業	株式会社 市 川 商 店	株式会社 石 塚 洋 紙 店	株式会社 飯 島 商 店	朝日紙交易株式会社	朝西紙商事株式会社
米山紙商事株式会社	株式会社 吉 本 洋 紙 店	吉田次作商店	吉川紙商事株式会社	株式会社 ヨ シ カ ワ	株式会社 大 和 屋 洋 紙 店	武蔵株式会社	福原紙業株式会社	株式会社 日 野 屋 洋 紙 店	柏和紙業株式会社	株式会社 芳 賀 洋 紙 店	株式会社 錦 洋 紙 店	中庄株式会社	株式会社 東 京 商 会	株式会社 大 一 洋 紙 店	寿菱紙商事株式会社	株式会社 白 石 紙 店



レイアウト について

飯 島 実
大東クリエイティブ



本当のレイアウト というもの

私がレイアウトという言葉をおぼえたのは、いまから四十年近くも前のことである。

名取洋之助さんが主宰していた(日本工房)が日本の文化や産業の実態を海外に紹介する目的で英・独・仏・西の四カ国語使用の外字グラフ季刊紙(NIPPON)を創刊したのが、昭和九年——プロジャーナルでアート・デレクターを兼ねたのは名取さんだが、編集制作スタッフは、美術担当が山名文夫さんと河野鷹思さん、写真担当が木村伊兵衛さん、渡辺義雄さん、それに名取さんという豪華メンバーであった。私は当時三田文学出の新進作家だった倉島竹二郎さんの紹介で編集者として入社し、この創刊の仲間入りをしたわけである。

私は、ここで初めてレイアウトという言葉とその実態を覚えたのである。それまでにも、私は出版に関係していたので

△割付け▽のことは知っていた。が、それはあくまで、一般編集者の器用さでまとめる△割付け▽であった。名取さんのもとで、山名さんや河野さんのレイアウト作業の実態をまのあたりに見て、私は初めてレイアウトという言葉のきびしさをかきしさを知ったのである。

私のそれまでの△割付け▽つまりレイアウトなるものは、文章が主体で、カットや写真や図版は資料であり、補足的なものであった。活字が無難に組まれていれば、それでこと足りていた、技術的には単純な作業であった。だから、当時の編集者や印刷会社の営業マンでも器用な人びとは、ひと通りの△割付け▽を抵抗なくやっていたし、それが出版界でも印刷界でも当然のことと思われ、何の疑義もはさまなかった。

レイアウトという言葉が、実際に出版や印刷の部門で一般に通用するようになったのは、それから二十年もあとの昭和三十年頃からはあるまいか。この間、ずいぶん長い歳月がむなしく経過してい

るのだが、戦争、そして数年の混乱した終戦後の長い不毛の年月が、大きな障害となったものと思われる。しかし、閉ざされていた新しいビジュアル・デザインは程なく急速に花咲く時を迎えることになるのである。

レイアウトの定義と その作業

レイアウト(Layout)とは、簡単に定義づけると「新聞・書籍・雑誌および商業デザインなどの印刷物を作るにあたって写真、絵画、図形、文字などを一定のスペースに構成配列する技術」ということになる。

ビジュアル・デザインが認識されるにつれて、印刷物にも高度の視覚伝達技術が強く要求されるようになり、従ってレイアウトも単に記事の中に適当に写真やイラストや図形などを挿入してとりまよめることにあきたらず、その作業はいよいよ重視され、その技術はますます高度化し複雑化してきた。

対話へのかけ橋

1枚の封筒にも
大きな使命が
かせられています。



山口封筒

本社 〒104 東京都中央区八丁堀2-2-7 電話(551)1151代
工場 〒132 東京都江戸川区西端江4-21 電話(652)7721代

ビジュアル・デザインの技術の発展には、カラーフィルムが発達普及、多色印刷技術の長足の進歩、それにカラーテレビの普及などが関連し合って、この機運をたかめたことも見のがすことができない。

私がここで強くいたいことは、高度のレイアウトが要求される今日において、餅は餅屋にまかせろということであり、レイアウトは専門レイアウトに託すべきであるということである。レイアウトは今や編集者の余技的作業であってはならず、もちろん印刷会社の営業マンの器用さで手軽に扱われるような生やさしいものではなくてきている、ということである。

レイアウトは年とともに複雑多岐化してきてはいるが、その基本作業は具体的にいえば、突きつめたところ。

- (1) 写真の選択
- (2) 写真の組合わせ
- (3) 写真のトリミング
- (4) イラストや図形の寸法指定
- (5) 記事の活字や段組の指定
- (6) 見出しの書体や大きさの指定

などということになる。そして最終的には、それぞれ違った個性をもつ素材の構成配列の作業である。そして、その配列は印刷技術の認識の上に美的効果を与えて行われなければならないのである。ここで、ようやくレイアウトシートと呼ばれる総合的な印刷指定書が作られるという

段どりになるわけである。

レイアウトの諸作業には多種多様な才能と訓練が要求される。写真の選択に当っては、まず写真のよしあしを見わけ目を持たなくてはならない。また視覚上写真を効果的に生かすために重要な役割をもつトリミングの技術に練達していなければならない。配列の巧拙によって美的効果や訴求伝達の迫力が大いに違ってくることも忘れてはならない。記事の活字指定、段組、行間の決定もある。タイプフェイスに対する感覚の良さもレイアウトの大切な要素の一つである。見出しの書体と大きさの決定という作業



デザイナーのような華々しさはないがレイアウトの印刷物の制作に占める役割りは大きく、貴重なクリエイターでもあると言える。

んな仕事であり、レイアウトの諸技術に身につけて一人前のレイアウトになるには技術練磨に明け暮れる相当の歳月を必要とするものである。

真赤な太陽をメインテーマにした簡潔で雄大な東京オリンピックのポスターで国際的名声をものにし、そして今日もグラフィックデザイン界の大御所的存在である亀倉雄策さん——この著名なデザイナーの若き日の失敗談をここに公開することを寛恕していただきたい。

失敗ばなしのものはといえば、製本の△のどの開き▽に関することである。

亀倉さんは、日本工房へ入社前のテストとして、ドイツのライプチヒで開催される日本民芸品展示会のためのカタログの表紙のデザインをさせられ、それが名取さんに認められ、本文のレイアウトも全部まかされることになった。亀倉さんのレイアウトは好評であった。このカタログが完成したころ、彼は正式に日本工房の社員になっていた。

当時の亀倉さんは二十一歳ぐらいたったろう。ちょっと小生意気で向っ気の強そうなデザイン青年であった。しかし、レイアウトのセンスは新しく、すでに後の彼を思わせるひらめきを持っていた彼の語るところによれば、リシッキィやパウハウスに心酔していて、当時の裝飾画風の図案にあきたらず、直線と色のスペースで構成する方法にあこがれ、高円寺の安アパートの小部屋で食うや食わ

生産性の「拡大」に「コニースーパーテン」がお応えします。

毎時1万枚の超高速菊全判オフセット印刷機 2・4・5色機

小森印刷機械株式会社

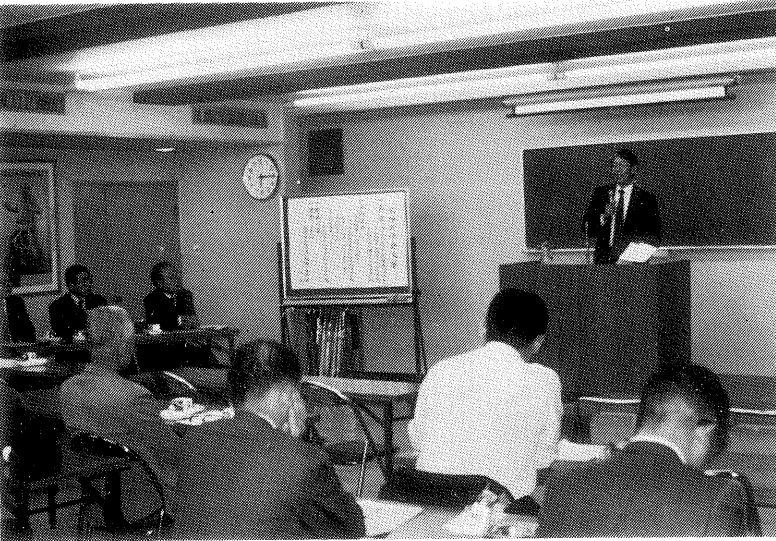
本社 東京都墨田区吾妻橋3丁目11番1号 〒130 東京都(624)7161番(大代表)

税 務 研 修 会

十月二十三日(金)、印刷会館七階講堂において恒例の税務研修会が開催されました。今回は、製本工組京橋支部も一緒に研修することになりましたので、多数の組合員の参集を予定しておりましたが

印刷が三十七名、製本が三十名程で、例年にならない少参加となりました。低成長の不況を反映したのか、多忙によるものか、若しくは内容がマンネリ化したのか分りませんが積極的な参加をお願いいたします。

さて当日は定刻五時より、石曾根支部長の開会の挨拶によって始められ、渡辺副署長挨拶に続いて研修に入り、まず吉田統轄国税調査官より、「税務調査からみた問題点」について講演が行われた。次に「役員と会社の取引」と題するスライドが上映された。川島上席申告指導官は、テキストを参照しながら「改正税法について」「役員報酬のあり方」について懇切な説明がなされ、改めて役員報酬の難しさに思いを深くした組合員も多かったように見受けられた。



二時間半に亘る有意義な研修会は製本組合牧野支部長の謙虚な閉会の辞で幕を閉じた。

プロセスインキの最高峰

New Champion

Super Apex



大日本インキ化学

山 桜 製 品

株式会社 山 桜

本社 東京都中央区築地3-2-9
電 話 542-8511 (大代)
工場 東京都昭島市大神町1046番地
支店 神田・中野・五反田・浅草・板橋・亀有
墨田・蒲田・横浜・千葉・大阪

経営者に求められる

リーダーシップ

千葉工業大学教授

鳥居 鉄也

筆者紹介

昭和十八年東京帝国大学理学部化学科卒業。海軍技術士官として勤務。終戦後、東京大学化学教室に於て地球科学の研究。

昭和三十年芝浦工大助教、教授。昭和三十八年千葉工大教授、現在に至る。専攻は地球科学。

現在、財団法人日本極地研究振興会常務理事ならびに事務局長。

昭和三十一年十一月南極観測隊が結成以来、観測隊員として参加、第四次、第八次の越冬隊長。またアメリカ隊、ニュージランド隊と共に極地における研究に従事、北極を含め過去二十一回に及ぶ体験をしている。

私は人に体験出来ない様な経験を、極地において、二十五年間やってきました。二十五年の長い歴史を持つようになった日本の南極観測隊の中で、私が最初に越冬しました(日本としては三回目の越冬でした)。第四次越冬の時、隊員の一人が

吹雪の中で遭難・行方不明という想像も出来ないような悲惨な目に会いました。十五人の仲間が越冬後半年たって、一人が突然欠けてしまうという体験をして、我々は本当に何ともいえない悔やみを全員が感じました。そういう時に、人間が一番頭に思い浮かべて、しまったと思うのは、先輩の教え・先人の教えです。私共は南極の調査は経験の浅い日本のチームですから、外国のいろいろな体験談やマニュアルを、全員が各々の立場で目を通してはいたのですが、実際体験してみて、いかに先輩の教えてくれたことが、尊いものであるか、自分たちはそうしたものを無視していたのではないかという後悔を持ちました。と同時に、隊長として私が当時考えたのは、リーダーとしての資格が欠けていたのではないかという反省の気持が非常にありました。私は第六次観測隊、これは日本が昭和基地をいったん閉鎖しましたが、閉鎖をするのに越冬隊を迎えに行き、そして帰るだけという隊長に、日本学術会から推薦されませんでした。私は遭難事故をおこしたのでペナ

ルティを課せられている立場なので、一応辞退をしたのですが、皆様の推薦で選ばれました。ところが、その後文部大臣のところへ書類が回ると、時の文部大臣に遭難事故をおこした様な隊長を、また隊長にするわけにはいかないという様なことで、私は恥をかき、内心積然とした点もあったのを記憶致します。

それから日本は四年間南極観測を中断しました。そして「富士」という砕氷船が新しく出来て観測を再開しました。この観測で、日本は沿岸の昭和基地から中央の南緯九十度の南極点まで往復旅行をしようという極点旅行の計画を立てました。その極点旅行は、私の次の第九次越冬隊の旅行隊によって成功しました。その前途中までの偵察と準備―ドラム缶を運んだり、そういうこと―をやるというので引っ張り出され、私は頼まれたところを御辞退しました。この前の様なところで恥をかくのはもういやだと断りました

というので、結局第八次隊に出かけたわけです。その時、私が一番感じたことは何をやるにしても、人間は安全に行動をしなくては行けない。安全第一ということで、そのためには第四次の福島隊員が遭難死亡した時の体験が非常に役立ちました。その後、私は昭和基地の日本隊のマニュアルを作り、その後、私共の後輩の越冬隊に役立つように気をつかい

ましたが、それが現在も使われているという状況で、私は喜んでると共に、この様なことが、一人の死亡者の犠牲によって行なわれたことは、申し訳ないという気持がするわけです。

この様な話を、皆様に申し上げるのは私共は近々二十五周年を迎えるので、福島隊員のことを書けといわれ、二、三日前にその原稿を書きましたので、思い出して申し上げたわけです。

いずれにしても、私はあの様な南極という所で暮していると、人間が自然に親しむということは、非常に大事である。と同時に、自然に逆らうことは非常に恐ろしいことである。結論として、人間は自然に親しんで生活すれば間違いのないということを学びました。

今日は時間の許す限り、南極のいくつかのトピックスを御紹介すると共に、私の越冬中の体験を申し上げたいと思います。

ところで、来年の一月二十九日は、昭和三十一年に日本を出まして、初めて宗谷で南極に行き昭和基地に上陸した日です。日本の南極隊は二十五周年という年月を経たわけです。その後、私共は、とりわけ私は国立の千葉大学をやめて、南極のことに熱中してしまいました。その間に私が感じたことは、あの昭和三十年に、日本が南極観測の参加を決定したわけですが、当時の第二次大戦後のまだ国力の回復していない時代、今の様なG

NP世界第二位というようなことは、ほど遠く離れていたような我々の生活環境において、先見の明があったということが出来ます。将来のために南極大陸の国際調査に、日本人として調査隊を出すべきだと判断を下された、当時の文部大臣や、茅誠司先生のお二人の決断力です。私は決断力が先に行く、右と左にこれほど大きくそれかかということ、南極観測で非常に体験しました。何故かと申しますと、西ドイツ、イタリアという国々は、当時科学者も国際連合の様な組織、当時から現在に至るまで出来ていて、国際学術連合という団体があります。気象の観測などを例にとりまして、この国際学術連合の中にある気象観測機構の分科会に属して、いろいろデータが交換されているわけです。この南極の観測も、その団体の中の科学委員で討議されて、日本が参加するかしないかという話、科学者のとりわけ観測の方面に興味を持っている関係の深い部門の先生方は、参加を主張されましたが、当時の環境から、ほとんどが無意味であると、学者の中からも出ていました。そんな中で、将来のためにという一つの見方をした松村さん、茅先生の両トップの見解というものに敬意を表しています。

決断力というのは、ある時期に人間としてとらなくてはいけない手段ですが、私は現在ふり返って、日本が南極観測に参加し、タッチしていたことは、我々の後輩たち、子供や将来のゼネレーションに対して、非常に益するものがあると思います。南極大陸には地下資源、とりわけエネルギー資源の石油、天然ガスが非常に豊富です。こういうものが、まさに対象になろうという時代を迎えてきています。当時をふり返ると、この大陸は皆目人類にその様な様子を見せなかった所です。こういうことは将来の問題ですが、日本が南極観測に参加したということ、またそれを現在利用しているところもあります。それは何かと申しますと、日本は最初南極に出かけました十二ヶ国の中で、自前で南極を往復した国です。日本人の性格かと思いますが、二十五年前に南極の話がおきました当時、一部の方には、よそから砕氷船を借りて往復すればいいではないかという意見がありました。我々の大多数は自分の船で往復するという思想が非常に濃厚であったことを思い出します。しかも日本は、その当時ですら、食料も防寒装備もあるいはエンジンも、その他の車輛、全てを国産で調達出来るような能力を持っていたはずかな国ではないかと思えます。そういうことが幸いして、南極というこの地球上で一番寒い気温も記録している南極大陸の体験が、我々低温環境における産業機械をどうすればよいかというノウハウを獲得したわけです。これが数年前から世界の資源を求め声を出して始まった北半球の寒冷地における人類の進出

に対する産業機械、建物、車、諸機械など全部が、盛んに日本から外国に輸出されています。こういうものの生産にあたり、非常に大きな波及効果を及ぼしていることが、現実になって表れています。私は将来、二千年の時代を迎えますと、我々人類はますます増加し、人によっては今の人口の倍近くにもなると予想する方もいますが、それにはやはり化石燃料の不足を解決する問題と共に、この北半球の広大な土地、今までは寒いがために利用しなかつたというシベリアやカナダ、アラスカ、北欧諸国を利用しなければいけないわけです。こうした所に、南極における生活行動の体験が、非常に役立ってきています。こういうようなものが、現在までに我々にはおこえてきていて、ということ、非常に喜ばしいと考えています。

私は七月に中国に行ってきました。三年前から招かれて往復しています。中国は一九八五年に南極大陸に観測基地を設けますが、その中国が、会う度に、我々は日本が本当にうらやましいと、とりわけ大学の先生が言います。我々の二十五年間の貴重な体験は、中国の科学者にとって非常にうらやましいというか、自分たちは文革その他で何をしていたかと、反省と共に感じているようです。それよりも西ドイツ、イタリアにしても、最初は断り乍ら、その後南極に基地を設けたいといいますが、なかなか最初に仕事を始めた十二ヶ国が同意をしなくて、つい昨年まで西ドイツも南極に基地を設けることが出来ませんでした。本當に二十五年前の私共の先輩の決断というもの、いろんな点において我々をいろいろと考えさせてくれるものがあります。ところで、私たちは何事でも仕事を初める時には、どういう段取りでやろうかと考えます。一番最初の頃をふり返りますと、第一次観測の時は南極大陸における行動の記録もかざられていました。しかも昭和基地附近は人類が上陸したこともない、また偵察をほとんどしていない地域の一つでした。風がどの位吹くのかあるいはどの位寒くなるのか、皆目わからないので、当時準備を始めた、関係者は苦労しました。まあ風速は六十メートルを考えればいささか。風速六十メートルというかなりの風です。氷の上立ち、三十メートルも風が吹くと、我々の体は立っておれません。吹き飛ばされる、ひっくりかえると、かなり重量の大きな者でも、車のエンジンをかけて走るように氷の上をすべっていくます。三十メートルを越えると、我々は行動出来ないう状態ですが、一応瞬間最大風速六十メートル位、気温は六十度前後下るといふことを想定して、そこで生活にたえられる建物、機械類を用意しました。こういう様な想定をやる場合、当時をふりかえると、皆さんお名前はご存知と思

いますが、第一回の越冬隊長をした西掘栄三郎博士の様にオールマイティの方はなかなか博学でいろんな御意見を出されます。西掘さんという方は、一部の業界では大変有名ですが、南極観測隊では評判の悪い方で、朝令暮改の悪いおやじという事になっていました。それほど発想がたくましいです。朝いろいろアイデアを出して、これをやりたまえという、昼頃にはそれと全く逆の話も出してこられるという方です。とりわけ極地においての話ですが、この様なフレキシブルな頭を持って準備を始めたのですが、現地に行きますと、それに輪をかけて、予定を次から次へと変えるという問題に、いくつかぶつかったわけです。こういう様な皆目わからない所に対する準備ということ、今ふりかえると、第一次の時は二段構え、三段構えの準備をした様な気がします。この様な予備軍が非常に役に立った様な気がします。

例えていいますと、昭和三十年頃というのは、アゲロンというのがよく使われはじめました。また、クラレのビニロンは山に行く人のアノラックやテントにいいという話が出ました。その他、昭和三十一年頃からは塩化ビニール系の合成繊維がぞくぞくと出たわけです。こういうような時代は、私たちはない資金の下で準備をしようとすると、企業の各方面から新製品を南極でテストしろというようなお話を受けても、絶対に寒い

所で役立つと思われる毛皮とか羽毛、ウールの繊維はなかなか手に入らない。テストをするには、手に入りやすい物はたくさんあったわけです。テントは合成繊維のテントで大丈夫である、防寒服も従来のような鳥の羽の入った羽毛服を使わなくても低温にたえられる、という判断の下で準備をしたのですが、しかし乍ら、当時私やそれ以上の年配の諸先生方は、だいたい経験のないことを南極でためそうというようなことで、出かけるのはもつてのほかだと、反対をされるのが非常に多かったです。したがって、私たちは主として合成繊維を主体とした準備をすすめる一方、ミニムムは絶対間違いないという、白瀬中尉が明治四十二年に南極に行きました時のような品物を、基本的に準備するということをしました。こういうような準備段階において、建物に対しても、油に対しても、いろんな新しい物に対する不安感がありました。結果として思うことは、零度を境として、プラスの世界にほとんどの人類は生活しています。零度以下の環境において暮している人はほとんどいないというの、地球上の人類の分布です。

南極という大陸は、日本の三十七倍という面積、オーストラリア大陸の約二倍、アメリカ合衆国とメキシコを合わせたような広い面積です。こういう広い所で、人類が将来資源あるいはその他の交通問題において、ここを利用するという

ことは、非常に大きく予想されるわけです。こういうことを考えた時、現在一番欠けていることは、マイナスの温度の環境における我々すべてのものに對するテストが、不十分であるということが、今もつてあることを、私は申し上げたいです。

これから寒冷地域に世界の趨勢として進出が予想されます。資源を求めて、あるいは食料増産を求めて、その方面に進出するということを考えた場合に、当然二十一世紀を待たずしてどんどん始めていくと思います。私もは零度以下の環境におけるいろいろな研究・開発・調査などを行い、実用化するものを作りあげていくことが、大切ではないかと考えています。

私は南極の往復をして、いろいろと面白いことを体験しましたので、今度はそのいくつかを申し上げたいと思います。

まず南極大陸というのは、太平洋・大西洋・インド洋の三つの海洋に囲まれている大陸で、海に接した沿岸に、各国の基地があるわけです。内陸の厚い氷の上に基地を設けている国は、ソ連とアメリカ隊だけです。これは飛行機で物資輸送が出来るということで内陸基地が完成しているわけです。沿岸の基地にいる人はペンギンを相手にしたり、あざらしを相手にしたりして、生物とおめにかかる機会がありますが、内陸の人は何一つない環境です。昭和基地は海岸近くにあり

り、海には一年中厚い海の氷がはつていますから、その氷の割れ目から、私どもはつり糸をたれて魚を釣るわけです。魚つりというのは、南極では非常に面白い一つのレクリエーションです。取って食べて自活するという事ではなくて、日曜日の午後、天気によければ、そのようなことで楽しむという程度です。あの海の氷の下に冷たい水の中に、わりと魚が多いことを知りました。本当に豊富でつり糸を垂れていると、すぐに食い付いてきて二十センチぐらいのキスの仲間が釣れます。びくなどを下げて翌日引き上げるとウニ、ヒトデ、マキガイがたくさん入っています。ウニはすぐに食べられませんが、マキガイは焼いて食べると酒の肴でうまいです。このように魚がよく釣れるので興味をもって釣っている内に、なかには紅しょうがで魚を釣ったり、ポルトナットの鉄の固まりをつり下げても魚がつかれました。南極の魚はエサを求めているのかどうか知りませんが、食いしんぼうのようで、我々興味のないくらいにどんどん釣れてきます。またロス海の方にいきますと、非常に大きな魚が釣れます。大きいものになると長さが一メートル五十センチ、体重が六十キロもありました。こういう魚がたくさんいて、アメリカ隊がこの魚を釣っているのですが、ワイヤロープをウィンチで四百メートルぐらいた下し、三メートルおきに大きな鉤にキスをエサに半日くらいして、エンジ

ンで巻きあげると、大きいのが釣れます。小さいのも三十キロぐらいのが数珠つなぎであがつてきます。

アメリカの生物学者は、その魚を研究しました。何故南極の氷の下のような冷たい水の中で魚が生きているのかと。結論からいいますと、南極に住んでいる魚は太平洋の魚と同じ種であってもピンピン生きていますが、ニュージーランドあたりでとった海の魚を、南極に生けどりのまま持ってきて、南極の氷の下に入れると、すぐに浮びあがつてきます。要するに凍死するわけです。同じ種であっても南極の魚はピンピンしている、他の海からつれてくると、すぐに環境になれぬせいか死んでしまう。それには何か原因があるのだろうと調べてみると、南極の魚の血液、体液の中には、体がおおらないような不凍液が入っていることがわかりました。要するに自動車のラジエーターに、冬場になると不凍液を入れて使いますが、あの不凍液と同じような化学構造を持った糖蛋白質が、南極の氷下の魚には含まれていることがわかったわけです。それは非常に面白い発見で、勿論その生物学者は、それで学位をとりました。しかしほとんど調べている内に、なかには全く糖蛋白質の含まれていない魚もあるというので、まだ他に原因があるのではないかと、引き続き調べています。

人間が南極ですっと生活したら、人間にもそのようなものが出来るかどうか、

エキスマーの調査の結果を聞いていないのでわかりませんが、人間も寒い所にいるとだんだんと慣れてくるということもあることを申し上げておきます。

と申しますのは、私は越冬中に昭和基地から南緯八十度、昭和基地が七十度、アメリカの基地が八十度ですが、そこまで雪上車で七十二日間旅行しました。その間風呂には一度も入らない生活を初めてしました。南極はほこりがないので、シャツなどよごれませんが、人間やはり長く同じ下着をきていると、あぶらが付くようです。でも下着の余分もないし、洗濯も出来ないのです。一週間着ると裏返して、また一週間着て、往復二週間着たシャツはすてるといようなことをして旅行しました。だいたい内陸旅行というのは、南極の真夏の大陸氷原は普通平均気温がマイナス四十度からマイナス四十五度です。かなり寒いのですが、毎日氷原を旅行していると、だんだん慣れてきます。我々が基地に着く丁度二、三日前に無線電話で発信している内に、アメリカの基地の隊員さんたちは、昨日天気がよくあったから、まっばだかで日光浴をしたという話を聞いたわけです。マイナス二十六度という低温です。日本にいてはマイナスの温度で乾布摩擦とか冷水摩擦とかする人はいますが、マイナス二十六度で表に出て日光浴をするというのは聞いたことがありません。このプラト基地というのは、年間平均気温がマイナス

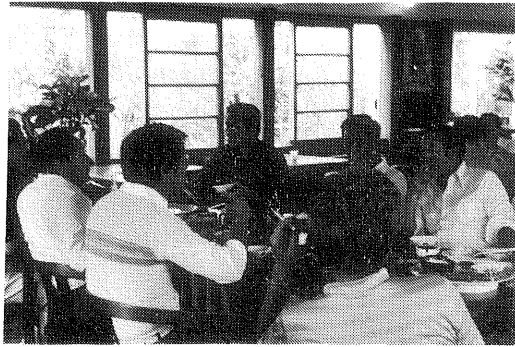
五十三度、夏でもマイナス四十度ぐらいです。冬になるとマイナス八十三度です。こういう所で一年も暮している、寒さにすっかり慣れてしまふ。さき程の魚ではないですが、寒さに抵抗力が出来てくることを、私も体験出来るわけです。

この様な南極の生活の中で、また一つ興味があるのは水の問題です。我々水というのは非常に研究の対象になり、これを利用してきます。何故研究の対象になるかというと、南極大陸の氷はおよそ今から五千万年ぐらい前から積ってきたようです。南極観測が始まるまでは、だいたい今から五百万年前から積もりはじめたものが、この大陸に高く積っていると考えていたわけです。その後の調査で、新生代、五千万年前からじょじょに天から降った雪が積って現在にいたっている。したがって底に向って下の氷を取りあげ、氷の中に含まれているものを調べると、昔の水にはどんなものが含まれていたか、比較出来るわけです。氷の中には、勿論降った雪の積る時に、その当時の空気も含まれているので、その空気の成分を調べると、今私たちが生活している大気の酸素窒素の比率とどう違うか、炭酸ガスは昔の空気とどのくらいあったか研究出来ます。また水の中に含まれている極く微量の水銀とか鉛とか、人体に有害な物質が、昔の水にはどのくらいあるか、現在の水にはどのくらいあるかも比較出来るわけです。我々環境科

学をやるものにとっては、地球のバックグラウンドを知るために、南極大陸の氷というのはよい研究材料です。

しかし乍ら、私たちはそういう研究とともに、いったいこの氷はどのくらいあるかなあと、氷の上を雪上車で走っていると、毎日ほかのことを考えませんから空想するわけです。最近、各国の調査隊は旅行中に氷の厚みを計り、データをもちよって、面積と厚みの関係で氷の量を概算で出しています。この氷を解かした時の量は、地球上の真水の約八十%に当る。地球上の水の九十七%ぐらいは海水ですが、そのわずかに三%の淡水の中の八割が水となって南極の大陸にあるといような状態であることを知ったわけです。人類にとって貴重な真水の貯蔵庫であるというのが、南極大陸の表現であるという見方をしているかと思えます。

こういうような氷は毎年毎年中央部から海に向かって、ザリ落ちていきます。そして沿岸から海に割れて落ちたのが、氷山というやつです。氷山は小さいのから大きいものからいろいろありますが、広い沿岸から割れずにごそと落ちたようなものでは、今までの記録で何と長さが百七十キロメートルもあります。このように大小様々な氷の固まりが南極の囲りに浮んでいます。これはみな真水のもので、雪が積って氷になったものが海に浮んでいるので、これを持ってきて解かせば真水になるといふ代物です。(以下次号)



新川地区

(新友会) だより

沖繩旅行記

(その1)

二年に一度の親睦旅行、今回は沖繩に決まり十一月一日、総勢二十八名で快晴の羽田空港を定刻八時五十分離陸、一行は沖繩旅行が始めての人がほとんどであり、本土復帰後の沖繩がどのような復興ぶりか想像しているうちに十一時五十分

那覇空港へ到着、まずおどろいたことは暑さである。気温廿七度(東京十七度)、一行汗だくで最初のコースである豊見城跡にて名物のパーベキューで昼食をとり、午後からいよいよ本格的な沖繩見物である。

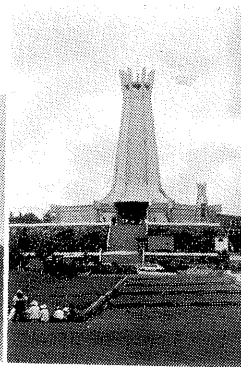
南部戦跡めぐりでは、「姫百合の塔」「摩文仁の丘」などで戦争の悲惨さを、ガイド嬢の感情こめた説明で当時の情況が想像された。一行のほとんどの人がどこかで戦争の体験をされており、あの灼熱の八・一五の敗戦を想い浮かべなかつた人はいなかったであろう。

さて、南部戦跡にわかれをつけ、次に東洋一と言われる鐘乳洞、「玉泉洞」に向う。途中の景色を見ると、南部では高い山がなく、耕地は沖繩特産である砂糖きびが大半のようだった。玉泉洞では夢の宮殿そのものであり、幻想のひとつきを過したのち、宿舎の沖繩ホテルへ着きチェックインをすませ、親睦会場の沖繩一と言われる料亭「左馬」で本場沖繩料理を食べ、名物のアワモリを飲み、伝統的な琉球舞踊を見ていると、何んとなく大名気分になったようだった。宴も最高潮になり一行のなかから詩吟がでたり、歌がでて楽しいひと時を過した。

第二日目は、中北部観光となっており、まず、「守礼の門」で記念写真をとり、「多幸山ハブセンター」へ向う、途中嘉手納市を通るさい米軍の嘉手納基地がしばらく続く、ガイド嬢の説明によると、

米軍の誇る極東一と言われる基地であり嘉手納市の面積の85パーセントを使用しており、沖繩全土では15パーセントが基地であり、何となく基地の中に沖繩があると云った感じがした。

このように基地があるかぎり、沖繩ではまだ戦後はないのではなからうか。複雑な気分の中にバスは多幸山ハブセンターに着き、ハブの生態を見学し、ハブとマンガースの死闘を見た。これは話に



聞いてはいたが大変残酷な戦いである。何んとなく人間社会の戦いそのものようであった。さて生々しい戦いのあとはムービーにて昼食の後、南国特有の海へグラスボートで海底の珊瑚礁や熱帯魚を観覧し、あまりにも美しいことに感動した。

コースものこり少く東南植物園、コザプラザハウスを見学のと、沖繩迎賓館ですばらしいショーを見ながら食事を

△トウのビジネス封筒

名刺・カード・はがき

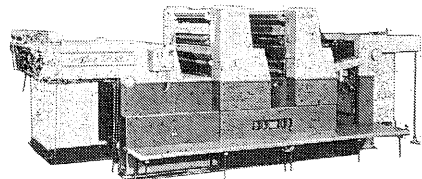
- 営業品目
- 事務用和洋封筒
 - 名刺用紙
 - 私製はがき
 - 招待状カード封筒
 - マドマド封筒
 - R Oマド封筒
 - D M用封筒

株式会社 △トウ エニパック

- 本社 東京都江東区永代1-2-1 電話(642)1141(代表)
- 配達センター 東京都江東区永代1-1-7 電話(643)3237(代表)
- 支店 城南(727)4141 本郷(643)7461 城西(994)5151 浅草(643)7851
- 栃木工場 栃木県下都賀郡野木町友沼 電話02805(5)2100(代表)

新鋭機設置... プリント界をリードする技術!

●ミラーTP-38S(菊全2色刷両面兼用機)



既設機種/小森四六半載・エクセル1色刷/菊全ニューフニー2色機

松川印刷株式会社

〒104 中央区湊1-12-5 ☎553-0831(代)

し二日目の夜を楽しく過した。
三日目は、朝食のあとフリータイムで
おのおの市内見物や買物へとホテルをあ
とにした。十四時五十分ふたたび全員集
合、元氣よく那覇空港より沖縄の復興を
祈りつつ東京へと帰路についた。

(野村生)

(その2)
沖縄とは日本の最南端の県であるくら
いの認識で旅行に参加しました。二泊三
日の旅行でしたが現地について感じたも
のは戦争の痛ましい傷跡でした。それは
米軍基地の町と、私達が二十年前に忘
れた戦後がまだ脈々と生きていたとい
うことでした。

名所、旧跡の大半が激戦によって破壊
され、それによって新しくその古戦場や
墓や、忠霊塔が名所になっていました。
日本将兵と一般人を含め二十八万余と米
軍数万人が戦死した日本唯一の激戦地だ
ったのです。

そのことはそれなりに意義もあり大切
なことでしたが、十一月上旬とはいえ、
二十七度の熱気のもとでなんともやり切
れない思いで歩いたのは私一人だったで
しょうか。

三十数年前の暗い世代の思いが急に思
い出され胸が痛んだ。「戦争はむごいな
あー」。

しかしそこに住む沖縄の人のなんと明
るい顔。日本の海洋民族のルーツが沖縄
を經由しているらしいと誰かが言ってい

たのも理解できます。

風土的にも歴史的にも薩摩の指揮下に
ありその中から空手など武道が生まれ沖
縄文化が育ったようです。

それにしても沖縄はどこか違っていま
す。彼等が使っている言葉は地方の方言
とはいえ、私達の音と訓の使いわけが違
うので中国語を聞いていようでさっぱ
りでした。また東南アジアの華僑街を見
るような街並、繁茂する熱帯植物、海底
隆起でサンゴ礁の化石で出来上った島、
日本の南にある県というだけでは理解し
にくい歴史的、文化的にも問題が多いこ
の島は一度は訪れる価値があり、二泊程
度の旅でしたが来てよかったですと思いま
した。

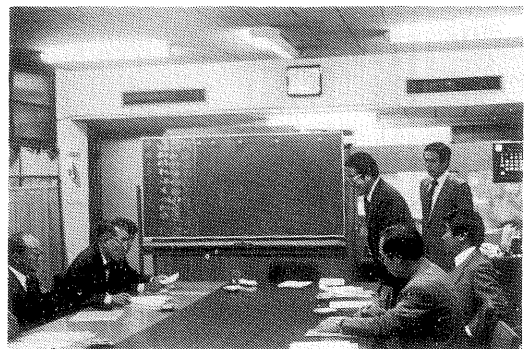
企画を頂いた旅行幹事さんにお礼を申
しあげます。(伊森生)

地区だより

▼新富地区

十一月六日、新富地区では地区研修会
を京橋支部会議室にて夕方より開催しま
した。

中村地区長の挨拶の後、講師の天野一
男氏が紹介された。同氏は中村地区長の
同窓の友人で、野村証券、野村総合研究
所を経て現在独立して、オーザツクイン
ターナショナル㈱の思考工学研究所長と
して、一般企業の社員研修や幹部研修
を請負っています。当日は国際情勢の見



挨拶する中村地区長 (後に立っている方が天野講師)

方や新規事業進出を成功させるための考
察、思考工学と行動のための判断術、投
資家のための判断等々管理者にとって有
益な話がされ大変興味深いものがあっ
た。講演のあと同氏と共に食事をしなが
らいろいろな話題に及び三時間以上に亘
って九時過ぎに終了しました。参加者十
二名。

▼新川地区

オフコンだ、ワードプロセッサだと
毎日頭を痛めている現在、新川地区では
内田洋行㈱顧問、宮子義嵩氏を講師とし
てお招きして「人間とコンピュータ」
を題目にて十一月九日、印刷健保会館で
五時～八時講習会を開いた。地区組員
三十七名の参加で、時の経つのも忘れて
熱気のこもる聴演ぶりでした。

写植のことなら何でも...

- 各種写真植字機
- 写真植字文字盤
- オペレーターの養成<写植スクール>
- 版下マンの養成<フィニッシュワークスクール>

株式会社 **モリサワ**

東京支店 東京都新宿区下宮比町15-5 〒162 ☎03-267-1231

ここに鮮やかな一枚
ノーカーボン紙
レジック

十條製紙

〒100 東京都千代田区有楽町1-12-1(新有楽町ビル)
TEL. 東京(03)211-7311

支部の動き

- 10月3日 製本組合京橋支部懇親旅行会 於・熱海温泉。石曽根支部長参加。
- 10月7日 京橋支部及び東商中央支部共催、営業員研修会(1)開催、石曽根支部長司会、参加者41名。
- 10月14日 部長・監査・地区長会開催、総決起大会報告、経営者退職功労金制度の創設他支部事業等を打合せ。
- 10月14日 営業員研修会(2)開催、於・東商中央支部、石曽根支部長司会。
- 10月16日 本部理事会開催、於印刷会館7階、各理事出席。
- 10月21日 営業員研修会(3)開催、於・東商中央支部、石曽根支部長司会、三田村副支部長出席。
- 10月23日 税務研修会開催、於・印刷会館七階、製本組合京橋支部と共催当支部より三十七名参加、製本より二十五名参加、役員賞与のあり方、最近の税務調査の問題点等の話をきく
- 10月28日 営業員研修会(4)開催、於・東商会議室、石曽根支部長司会。
- 10月29日 臨時部長、監査、地区長会開催、於・強羅温泉富士屋ホテル、会費一万円也。
- 11月4日 本部支部長会開催、石曽根支部長出席。構改調査票の提出、用紙問題等について打合せを行う。
- 11月4日 営業員研修会(5)開催、於・東

商会議室。石曽根支部長司会。
 11月11日 部長監査会、地区長会開催、於、京橋支部会議室。新年会の準備等を打合せする。

11月11日 営業員研修会(6)開催、於・東商会議室、石曽根支部長司会、三田村副支部長出席。

11月18日 営業員研修会(7)開催、於・東商会議室、石曽根支部長司会、三田村支部長出席。

11月25日 営業員研修会(8)開催、於・東商会議室。石曽根支部長司会、三田村副支部長出席。

慶 事

神戸印刷文化典に於て、大東印刷工芸協社長、支部顧問の花崎実氏が全印工連の組合功労者として受彰されたのに続き、十月には、東京都中小企業団体中央会25周年記念表彰に際して都知事特別表彰に榑齋藤正文堂社長、支部顧問の齋藤喜徳氏が選ばれました。これは20年以上組合理事、監事等を引続き在任した方に贈られたもので東印工組からは二名選ばれました。於中央会館。おめでとうございませす。また、十一月には榑モリイチ社長、支部参与の森元雄氏が労働大臣賞を技能検定委員の功労が認められて受賞されました心からお祝い申し上げます。尚新年臨時総会において三氏の受賞を祝賀の予定。

告知板

- フォーム印刷用スケール頒布
フォーム印刷用スケール(金屬製)三種類をいづれも一本三千円にて頒布します。長い方は事務所用、短い方は営業員用。
- 日米フォーム印刷用語集(I B F I 編)を一冊千五百円にて頒布します。
- フォーム印刷の積算(小冊子)は一冊千円です。以上ご希望の方は、京橋支部事務局迄申込下さい。

組合員の異動

- 「加入」
10月、八丁堀地区、トップビジネス印刷機、代表者・佐藤泰三氏
- 「脱退」(56・6・10月)
6月、八丁堀地区、いろは工芸社、長沢邦行氏。9月、八丁堀地区、(南)浩生社印刷所、酒井和子氏。9月、新川地区、明文美術印刷機、小野忠雄氏。10月、八丁堀地区、(南)竹田印刷所、竹田明氏。

計 報

11月10日、銀座地区組合員、(榑)近代社、社長御令闈、渡辺芳江様が御逝去されました。行年四十六歳。御冥福を祈り謹んで哀悼の意を表します。

編 集 後 記

例年より一カ月も寒さの訪れが早く十一月から各地の雪だよりや、スキー場開き等が報じられウィンタースポーツの季節となった。しかし暖冬きみで雪不足の新春となった。

ウィンタースポーツのような華やかな産業もあれば、印刷業のようにまことに地味な、縁の下の力持ち的業種もあるのは対照的である。

首都圏のこの地味な印刷産業の創始者達の出身地をランダムに見ると、不思議に裏日本のような寒冷地に多く見受けられる。西日本出身者が他産業のように多くないのは、この業種がまことに根気のいる地味な仕事で、粘り強い気質の地方の出身が多かったためであろう。

最近では、従来の印刷業の仕事の内容も技術の進歩や、各種O・A機器の出現により大きく変革してきており、昔のように「根気」仕事から「頭脳」仕事へと移行しつつあるのではなからうか。

この意味で、組合本部の構改事業の成否も組合員各自の取り組み方如何にかかっているといつてよく、構改調査表。業態調査表の提出も当京橋支部に於てはそれぞれ約半数に満たない。

どうか未提出の方は早急に記入の上ご提出くださるよう正月早々で申し訳けないお願いとなつてしまつた。